

授業科目名	日本語教育	単位数	2
担当教員名	南口 順子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	外国人に日本語を教える立場、日本人に日本語教育（日本語教授法）を教える立場からの教育経験を踏まえてこの科目を担当している。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 日本語の言語的特徴を理解する。</p> <p>(2) 日本語教育の基礎知識を習得する。</p> <p>(3) 外国語として日本語を捉え、客観的に日本語を見直す視点を養う。</p> <p>(4) 自分の言語生活を内省する能力を育成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>意識的に学び取ったことは他人に伝えやすいが、無意識に習得したものを人に伝えることは難しい。</p> <p>この授業では、無意識に習得した母語である日本語を、外国語としてもう一度客観的に見つめ、意識的に捉え直すことを目的としている。日本語教育の基礎的知識習得を目指し、外国人に日本語を教える際に必要とされる日本語の知識を音声、文字・表記、語彙、文法など幅広い面から概観していく。自分自身の使っている日本語を意識的、分析的に見つめ直すよい機会になればと考えている。</p> <p>日本語教育の概説的な内容を扱い、関連科目として「言語学」「日本語学（1）」「日本語学（2）」「日本語学（3）」「日本語教授法」がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 第1章「言語としての日本語」日本語の言語的成り立ち、世界の言語の中の日本語</p> <p>第2回： 第2章「音声学」①日本語の音、音節、日本語のリズム、母音、半母音</p> <p>第3回： 第2章「音声学」②子音（調音点、調音法）音素、母音の無声化</p> <p>第4回： 第2章「音声学」③日本語のアクセント、イントネーション、プロミネンス</p> <p>第5回： 第4章「文字・表記」①常用漢字表、筆順、送り仮名、現代仮名遣い</p> <p>第6回： 第4章「文字・表記」②外来語の表記、ローマ字 ③日本語の文字の歴史1</p> <p>第7回： 第4章「文字・表記」④日本語の文字の歴史2 第5章「語彙」①語、語彙、語種</p> <p>第8回： 第5章「語彙」②語構成、語彙の体系、位相</p> <p>第9回： 第3章「文法」①日本語文法と国文法、品詞分類、動詞の活用</p> <p>第10回： 第3章「文法」②日本語の文法的特徴、日本語表現文型6～18前半</p> <p>第11回： 第3章「文法」③日本語表現文型6～18後半、助詞</p> <p>第12回： 第6章「待遇表現（敬語）」「方言」「共通語」</p> <p>第13回： 第7章「心理学」*第一言語習得（母語の習得）と臨界期</p> <p>第14回： 第8章「第二言語習得」の理論の基礎</p> <p>第15回： 付録「日本語教育史」を概観</p>			

スクーリングでの学習内容

この科目は日本語教育の概説的な内容を扱うため、

- 1) 「日本語教師養成コース」のオリエンテーションを行う。
- 2) 国文法と日本語文法（外国人に教える文法）の違いを中心に、外国人が日本語の文法を学習する際、どのような点が難しいかを踏まえ、誤用例から具体的指導法を考えていく。事前学習で集めた日本語の表現文型の用例をもとに、生きたコミュニケーションの中で個々の文型がどのような機能を持っているか分析する。（第1回から11回までの内容を横断的に含み、主に9回から11回の内容を中心に進める）

テキスト

増補改訂版『新・はじめての日本語教育・Ⅰ』アスク出版

高見澤孟 著、監修、ハント蔭山裕子、池田悠子、伊藤博文、宇佐美まゆみ（2016年）

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。